

【事例発表】

団体名：公益財団法人大垣国際交流協会

産業、文化、スポーツ、教育など幅広い分野で国際的な交流を基にした「フレンドリー構想」の促進をはかり、国際社会に対応できるまちづくりと国際親善に寄与することを目的に平成63年に設立し、現在は国際相互理解の促進を図るとともに、地域在住外国人市民と共生できるまちづくりを目指しています。

1. 国際相互理解の促進に寄与する事業

①フレンドリーシティ交流事業



②地域国際交流事業



③国際交流ボランティア活動推進

- ・日本語指導ボランティア講座（文化庁委託）
- ・ボランティアの集い

④民間国際交流助成事業

⑤外国語基礎会話講座

⑥海外事情紹介事業

2. 多文化共生社会の形成に寄与する事業

①地域在住外国人市民の日本語学習支援

- ・マンツーマン方式日本語学習支援
- ・にほんごおしゃべりルーム
- ・外国人市民のための日本語教室（文化庁委託）
- ・日本語教育の学習教材作成（文化庁委託）
- ・就学前外国人児童日本語等指導事業（大垣市委託）

②外国人市民のための相談窓口の設置

- ・生活相談（ポルトガル語、中国語、英語対応）
- ・行政書士による行政手続き相談会
- ・ポルトガル語によるこころの相談会

③外国人市民のための行事、講座等の開催

④ブラジル人子弟日本語学習支援



地域在住外国人市民の日本語学習支援

地域日本語教育実践プログラム【文化庁委託事業】

マンツーマン方式
日本語学習支援

ボランティア
人材養成・研修

にほんごおしゃべり
ルーム

日本語教室アシス
タント人材養成

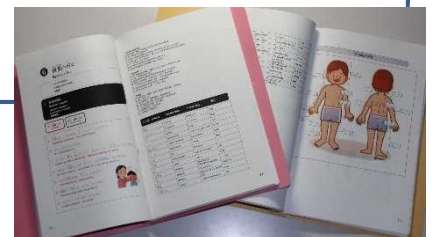
日本語教室

基礎コース

会話コース

日本語指導
ボランティア講座

日本語学習教材



【連絡先】公益財団法人大垣国際交流協会 〒503-0911 岐阜県大垣市室本町5丁目51番地
TEL 0584-82-2311 Email oiea@mb.ginet.or.jp URL <http://www.i-oiea.jp> 担当：吉安 三恵

事業実施概要

| | |
|---------|---|
| 事業名称 | 地域日本語力はぐくみ事業 ～外国人から支援ボランティアまで～ |
| 地域の課題 | 外国人数の増加と共に背景も多様化し、定住者が増加している中、地域社会の中で安心して生活するために初期レベルの日本語学習だけでなく、中長期的に暮らす中で必要となる医療、教育などの生活場面での日本語学習機会が必要である。 |
| 事業の目的 | 外国人が日本語コミュニケーション能力を伸ばし、また生活に必要な情報等を得ることで、地域住民と積極的にコミュニケーションを図る基礎をはぐくむと共に、地域住民が日本語教育の支援者として寄り添うことで社会の中で孤立しがちな状況を軽減させ、日本人と外国人が共に認め合える地域づくりを目指す。 |
| 事業の概要 | <p>日本語教育の実施</p> <p>名称：外国人市民のための日本語教室「基礎コース 2016」「会話コース 2016」 目的：地域で暮らす中で必要な情報を得て、地域社会の一員として安心して暮らすことができるように日本語の習得を目指す 対象：〈基礎コース〉日本語ゼロ初級レベル 〈会話コース〉基礎コース終了レベル 人数：84人（主な出身・国籍：ブラジル：38、ベトナム：16、フィリピン：10、中国：7） 時間：全80時間（週1回×2時間（全40回（基礎コース30回、会話コース10回）） 内容：〈基礎コース〉「自分のことを伝える」を大きなテーマとし、自分自身のこと、家族のこと、自国のことなどを表現できる日本語の学習 〈会話コース〉生命に関わる重要な場面「医療機関の受診」「110番・119番に通報」の場面で必要な会話や語彙の学習とそれに関する情報の習得 指導者：日本語学校所属の日本語教育専門家+アシスタント（市民ボランティア）</p> |
| | <p>日本語教育を行う人材の養成・研修の実施</p> <p>名称：日本語指導ボランティア講座 目的：日本語学習支援サポートに必要な知識の習得を行うと共に、外国人に対する意識や多文化共生の考え方に関する理解を促し、サポート人材を養成する 対象：日本語学習支援に関心のある市民、日本語指導ボランティア登録者 時間：全30時間（1回2時間×8回（1期）、1回2時間×7回（2期）） 人数：53人（出身・国籍：日本） 内容：外国人の状況、大垣市の多文化共生の施策、日本語の教え方、日本語教室の見学</p> |
| | <p>日本語教育のための学習教材の作成</p> <p>名称：大垣で暮らす外国人市民のためにほんご教材作成 目的：教材を通して日常生活に必要な語彙、表現を学ぶと共に生活情報や行政情報も得られる教材を作成し、地域で安心、且つ自律的な生活が送れるようにする 対象：日本語初級レベル以上の日本語学習者 構成：〈本編〉買い物、乗り物、学校、病院、災害、ゴミ、子育てなど12の生活場面 〈資料編〉数字、カレンダー、質問のことばなど 使い方：平成29年度実施の日本語教室（会話コース、生活情報習得クラス）、マンツーマン方式日本語学習にて使用</p> |
| | <p>成果と課題</p> <p>【成果】学習効果による日本語能力向上による地域住民とコミュニケーションを図る基礎作り。地域住民に日本語教育の重要性や多文化共生の必要性を伝えることができた 【課題】取組間の連携、学習者の居場所となる教室の運営方法、関係機関との連携 【本年度の取組】各取組間の連携強化（①作成教材を教室活動で使用+使用している学習者等の feedback を元にした教材の改善、②ゴミや災害などがテーマの「生活情報習得クラス」の実施）、関係機関との連携</p> |
| 発表者から一言 | 取組の特徴は日本語学校や地域の大学との連携、②専門機関・人材+地域住民による支援です。ポスターの掲示のみで直接発表が出来ず申し訳ありません。ご意見等ありましたら、ぜひ E-mail などでお送りいただくと幸いです。よろしく願いいたします。 |